慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	歴史地理索引(日本歴史地理學會發行)
Sub Title	
Author	今宮, 新(Imamiya, Shin)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.4 (1933. 12) ,p.161(741)- 162(742)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19331200-0162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

眞實なる史實を把握し、其上に歴史的發展の過程を跡づけなければならない。豫め用意せられた理論に史實を當て嵌めるやうな歴史的論述は絶對反對であると、言つてをられる。

本書は節を分つこと十五、第一節緒言、第二節市場の意義及び其語原から第十四節平安時代の臨時市場、第十五節結言に及んでゐるが、最後の結言に於いては、結論を目的とし、更に、それを基礎として古代市場の發生、展開の歴史的過程を極めて手際よく要約してゐる。

著者も言はれる通り、本書は嚴密に言へば、「日本古代經濟資料」と言つた方が適當であるかも知れないけれども、その研究には、主として文獻學的方法を採り、市の起原、發生等に關しては、文化人類學的方法を用ひ、言語學的、考古學的、土俗學的、人文地理學的資料を用ひて、それを要領よく分類、整理、綜合してゐる點に、從來の經濟史と異つたところがあり、又其處に本書の自らなる存在の意義と價値とが見出されるのではなからうかと思ふ。

吾人は西村氏のこの事業に敬意を表すると共に江湖に一讀を薦める所以である。（四六倍判、一七六頁、定價二圓五十錢、東京堂發行）（淺子勝二郎）

岩波講座「日本歴史」（黒板勝美編　岩波書店發行）

岩波講座は今回その第十次計畫として日本歴史（全十八卷）を刊行することゝなつた。編輯者は黒板博士を主宰者とする國史研究會同人を中心として權威ある先輩と新進とを網羅してゐる。而して本講座の目的は日本民族が、その搖籃時代より現代に至るまで政治外交社會經濟文化思想等あらゆる方面に於て如何なる變遷如何なる飛躍をなし來つたかについて組織的な知識を供せんとするにある。内容は之を「總説」「本編」「別編」「參考編」に分ち百三十六の題目を立てゝそれを各大家が分擔し更に「年表」を附してゐる。今回その第一回配本として、「皇家中興の大業」（黒板勝美）「憲法の制定」（藤井甚太郎）「政黨の發達」（尾佐竹猛）「中世に於ける國體觀念」（平泉澄）「城郭の變遷」（鳥羽正雄）「律令制度」（瀧川政次郎）が刊行された。これを一讀するに、本講座の特色とする學界最近の專問的研究を平易に解説すること、解説の簡明平易にして的確なること等がよく表れてゐる。從つて廣く一般の人々に日本歴史に對する感興を起さしめ祖國に對する關心と理解とを與ふるに貢獻する所が甚だ大であると思はれる。かゝる廣く讀まるゝ講座の執筆者は、あくまで學者としての良心と責任とを感じ、一般の人々に眞の日本を知らしめる爲めに記述さるゝことを特に希望する次第である。（今宮新）

歴史地理索引（日本歴史地理學會發行）

索引位研究者にとつて必要であり且つ便宜なるものはあるまい。今回日本歴史地理學會より吾々の待望してゐた本索引の刊行された事は「歴史地理」が多年學界に重要な地位を占めてゐるだけに研究上非常なる便宜を與へらるるものである。本索引は第一卷第一號（明治三十年十月號）より第六十卷第六號（昭和七年十

二月號に至る論文及び口繪について作成されたものであり、これを件名、國別、口繪、著者の四索引に分つてゐて索引としては殆ど完備してゐるものと思はれる。此に依て研究上の便宜を得た事を喜ぶと同時に、編纂者の勞を多とせねばならない。（今宮新）

Histoire sincère de la nation française,

par Charles Seignobos, 29éd., 1933. Paris.

曩に廣瀨哲士教授の『佛蘭西二千年史』（昭和六年四月刊行、菊判三三六頁、後改題して『佛蘭西全史』といふ）と高市慶雄氏の『佛蘭西史』（列國史叢書中の一册、同年六月刊行、四六判二六六頁）とが、相前後して刊行せられ、乏しかつた邦文フランス史に遽かに二部を加へたことは西洋史學界の幸福とする所であつたが、又別にパリ大學ソルボンヌの二人の史學教授によつて、二部の歐文フランス史が加へられた。一つはギニュベール氏のフランス國民史（私の手にしたのは英譯 A Short History of the French People, 2 vols., 1930）であつて、大判千百三十八頁に及ぶものであるが、他は表題のセニョーボス氏の四六判五百二十頁の著述である。

廣瀨教授の著述はその序文にも示してある通り（三頁）主として Jacques Bainville の Histoire de France, 2 Tomes, 1926. p. 600. に準據したもので、著者が佛文學者であるだけに讀ませる文章を以て綴られ、主黨的原著者の色彩も移されて妙味がある。たゞ餘り歷史用語の反譯に苦心せられた結果、却つて新機軸を出し過ぎはせずやと思はれる節もないではない。所謂三部會を全國通級會議と譯した如きはその一つである。高市氏の著書は寧ろ在來の教科書型に編述せられたフランス史であるが、固有名詞には特に注意が拂はれて『佛蘭西の地人名は佛語音を以て表示』（例言一頁）せられた譯であるが、餘りに誤り多く發音せられてゐる。さうして『アルサス・ロレンも、本書の主義では「アルサース・ロレーヌ」とすべきだつたらう』（例言二頁）とあるも原語主義ならばそれは『アルザス』と言ふべきであらう。

パリ大學二教授の著述はそれ〴〵特色を有し、兩書に比して一層清新の氣に充つるものがある。斯學に經驗深く、著書多きセニョーボス老教授の新著は、Essai d'une histoire de l'évolution du peuple fraingais と小題が附せられてゐる通り、『過去に於けるフランスの住民が如何なる變遷を經て現在のフランス國民を作り出すに至つたかを』述べんとし、フランス生活の主成分としての生活の條件、習慣、制度の起原を求め、フランス固有のものと外來的なるものとの限界を明かならしめんとし、氏の得意とする政治史的發展の記述に重きを置いて之を他の諸般の方面に及ぼしたものである。本書の變つた表題は氏の說かんと欲する所を明かにしたもので、史學の發達したる今日に於てこそかく言ひ得るのであつて、在來の歷史が誤り多きものであることを暗示するものである。進步的立場にある氏が民衆本位に說いたこの一册の小フランス史は吾人の讀むべき良著として何人にもその推薦を躊躇すべきでない。原著が忽ちにして二十九版を重ねてゐるのに見ても本書の聲價は知られるのである。歐米に於ける正しき歷史が一